






## 審査結果の要旨

報告番号	甲 第 1392 号	氏名	國武 正幸
審査担当者	主査	安川 圭司	
	副主査	吉川 恭治	
	副主査	井川 亨	
主論文題目： Exploring Predictors of Hypertension Development With Pazopanib and Examining Predictive Performance Over Time (パゾパニブによる高血圧発症予測因子の探索とその経時的予測能の検討)			

### 審査結果の要旨 (意見)



本研究は、パゾパニブ服用により誘発される高血圧の予測因子をロジスティック回帰モデルで分析し、Time-dependent ROC 分析を用いて経時的な予測能を評価したものである。分析の結果、収縮期血圧、総ビリルビンと性別の3因子がパゾパニブ誘発高血圧の予測因子であり、治療期間の初期から後期にわたって高い予測能を示すことが明らかとなった。本研究の成果はパゾパニブ投与患者の高血圧発生の監視や管理に有用であり、学術的意義は高い。また、集談会の発表や質疑応答での対応も適切であった。以上より、学位授与に相応しいと判断した。



### 論文要旨

パゾパニブ服用患者では高血圧が頻発する。そこで本研究では、パゾパニブによる高血圧の予測因子を明らかにすることを目的とした。2012年11月から2020年2月までの久留米大学病院入院中に腎細胞癌または軟部肉腫でパゾパニブ治療を開始した計47例を対象とした。パゾパニブによる高血圧に関連する患者背景因子についてロジスティック回帰モデルを用いて分析した。また、パゾパニブ誘発性高血圧の予測因子の経時的な予測能の変化を評価するために、Time-dependent Receiver Operating Characteristic (ROC) 分析を行った。ロジスティック回帰分析の結果、総ビリルビン (t-bil) と性別 (sex) が、パゾパニブ導入前の収縮期血圧 (SBP) とともに、パゾパニブ誘発性高血圧の予測因子であることが示された。さらに、Time-dependent ROC を用いてパゾパニブ投与開始後20日間の曲線下面積 (AUC) の経時変化を評価したところ、SBP では前半に、t-bil では後半に AUC が高くなる傾向が示された。さらに、これら2つの因子を含むモデル (SBP+t-bil および SBP+t-bil+sex) は、治療期間の初期から後期まで高い AUC を維持した。ベースラインの収縮期血圧とともに総ビリルビンを取り入れることで、医療従事者はパゾパニブ投与中の患者の高血圧を予測し、監視する能力を高めることができ、より良い管理と患者ケアにつながると考える。